

Together

Shukutoku University Magazine
No.247 | 2025.10.1

学生×学長・事務局長 座談会

淑徳大学60年の歩み、
そして未来へ—対話の時間

淑徳人 No.242 Interview

新しい自分に出会うため
一歩、踏み出す

特集

淑徳大学フェア2025 in 宇都宮

ウィズ・ユー 在学生紹介

災害医療への想いが
大学の垣根を越えてつながる

ともいきのこころ

学祖・長谷川良信先生の足跡

SHUKUTOKU TOPICS

CAMPUS NEWS



淑徳大学60年の歩み、そして未来へ—対話の時間

時代を超えても人との出会いが 生き方を考える時間になる

1965(昭和40)年、国内4番目の社会福祉系単科大学として創立された淑徳大学。

現在は、7学部13学科を擁する総合大学として、多様化する社会課題に対応できる人材を育成しています。

創立60年の節目を機に、これまでとこれからの歩みを学生、学長、事務局長が話し合いました。

40年前と今——大学は出会いの場

学長と事務局長は淑徳大学の卒業生です。
学生時代について教えてください。

学長 私は社会福祉学部に入学したのは1981年です。当時、社会福祉を学べる大学はまだ少なく、全国から学生が集まっていた。だから、学内で県人会をつくった

り、仲良くなった友達の実家に泊めてもらいながら全国を旅したり、そういった雰囲気がありました。

事務局長 私は地方の出身で、関東への憧れや、父から福祉の勉強を勧められたこともあり、高校生のとき、高校の先輩を頼って淑徳大学のキャンパスを見学しに来たことがあります。高校とはまったく違う大学生活そのものに魅了されたことを覚えています。学

生時代は、家賃を安くするため何人かで部屋を借りて共同生活。懐かしい思い出です。

学長 40年前も今も、学生が持つエネルギーは変わりません。目標を持って進学した学生、4年間で目標を見つけようとする学生、いずれもさまざまな人と出会い、刺激を受けて人生を考えると、大学ならではの場があるように思います。

対話による相互理解

——多様な価値観を知る

学生の皆さんから学長、事務局長に聞いてみたいことはありますか。

岸 先生方の学生時代の話がとても興味深かったです。今の学生との違いはどんなところでしょうか。

学長 昔はほとんど情報があふれていませんでした。今はゼロから始めることでも、膨大な情報の中から選び取る必要がありますよね。高い情報リテラシーが求められていると思います。そういう環境だから、人よりもネットを頼りにしている印象を受けます。

伊藤 先行きが不透明なこれからの時代を生き抜くには、いろいろなリスクを把握したうえで行動する力が必要だと思います。先生方はどのようなお考えですか。

学長 自分がどう生きるかを考えるのと同



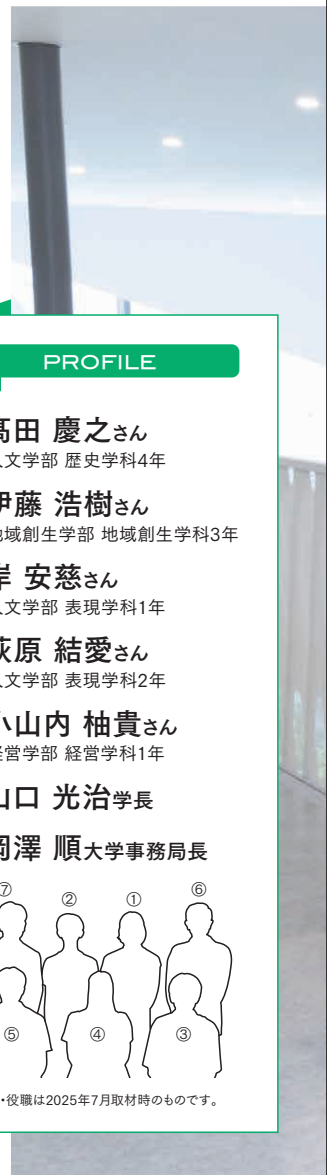
時に、周りとの関係の中で期待されていることに応えていくことも大切です。時代の変化をよく見ながら、持っている力をどう発揮できるか考える必要があるでしょう。大学としては、4年間の学びを通して、変化する社会の中で生き抜く力をつけてもらいたいと考えています。

事務局長 人生は選択の連続で、どう折り合いをつけていくかの積み重ねです。今は選択の場面が増えていて、自分との対話が大切ではないでしょうか。

小山内 学生の立場から、指導やサポートする立場へと変わってもなお、尊敬できる人はいっぱいいますか。

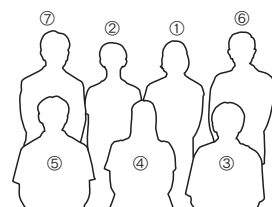
学長 誰か一人というよりも、家族、学生、教職員、旅先で出会った人など、たくさんの人との出会いの中から気づかされることが多いですね。

事務局長 特定の人物というよりも、「着眼大局、着手小局」という言葉を自分の考えや行動の指針としています。この言葉は、大きな目標を見据えながらも、目の前の一つひとつの課題に地道に取り組むことの大切さを教えてくれます。



PROFILE

- ① 高田 慶之さん
人文学部 歴史学科4年
- ② 伊藤 浩樹さん
地域創生学部 地域創生学科3年
- ③ 岸 安慈さん
人文学部 表現学科1年
- ④ 荻原 結愛さん
人文学部 表現学科2年
- ⑤ 小山内 柚貴さん
経営学部 経営学科1年
- ⑥ 山口 光治学長
- ⑦ 岡澤 順大学事務局長



※学年・役職は2025年7月取材時のものです。

60周年とこれから

大学の将来を考える

学生参画スタッフとして活動[※]した感想や、これからの大学に期待することを教えてください。

荻原 活動を通じて、教職員の方が学生に対し、こんなことを学んでほしい、こういうふうに成長してほしいという熱い思いを抱いて日々業務に取り組んでいることを知りました。その熱量をもっと他の学生に伝えたい、伝えることで授業への姿勢や先生への接し方が大きく変化するのはと感じました。

高田 学生参画スタッフ活動で、人間的な成長ができたと思います。人を信頼して任せることの大切さを知り、自分ができていることに加え、他の人ができることに注目する意識を持つようになりました。これから淑徳大学で学ぶ後輩の皆さんにも持つてほしい意識です。

学長 高田さんの気づきは、まさに大学運営と一緒です。先生方、職員の皆さんと役割を分担し、同じ方向を向いてより良い大学づくりをめざします。



事務局長 チャレンジする学生たちをサポートするために、皆さんの意見を集約し、具現化の方法を考え、事業計画に落とし込んでいきたいです。そのひとつが近年取り組んでいる4キャンパスの学園祭日程の統一化。各キャンパスの個性もあり、同一日程のメリット、デメリットを学生の皆さんに発信してもらうのも良いかもしれません。

学長 4キャンパスの個性、総合大学としての学びの多様性を大切にしつつ、淑徳大学としての統一感をどう図るか、これからの課題ですね。「利他共生」という建学の精神や「感恩奉仕」の考えを変わず継承しつつ、変化する社会の要請に応えるため、教育課程の見直しにも果敢に取り組んでいきます。

※学生の視点を大学運営に反映させる「学生参画スタッフ活動」

本学では、2023年度より学生が大学運営に参画する「学生参画スタッフ活動」が本格始動しました。2024年度には規程を制定し、学生の視点を大学運営に反映させる仕組みを整備。学生は、S・BASIC科目の点検・評価、学生生活の向上（部活・サークル紹介に係るホームページでの情報発信の促進や学内アルバイトの集約化等）と2つの課題を掲げ、中期計画を立て、大学執行部と意見交換を重ねながら解決に向けて活動しています。年2回の活動報告会の様子はS・Naviやホームページを通して学内外に公開されています。



活動報告会後に学生・教員・職員で記念撮影



学生参画
スタッフ活動の
詳細は
こちらから



4年間で何者にもなれる

新しい自分に

出会ったため

一歩、踏み出す



株式会社 テレビ信州 報道制作局 報道制作部
アナウンサー

寺澤 達哉さん

Tatsuya Terasawa

経営学部 観光経営学科 2024年卒



自分のペースで
目標を探した4年間

まさかアナウンサーになるとは、自分でも想像していませんでした。大学時代、アナウンスクールに通っていたわけでもなく、就職活動でテレビ局を受けたのは、今の職場と地元ケーブルテレビのみ。そのほかは興味を持った企業を幅広く受けていたからです。

入学当初は明確な夢がなく、好きな観光を学びながら目標を探そうと思っていました。そんな中で強く印象に残っているのは、LA（ラーニング・アシスタント）プログラム（現SLDP※）と夏期カナダ英語研修です。LAプログラムは、リーダーシップとコミュニケーション力の向上を目標としたもの。授業の面白さだけでなく、仲の良い友達ができ、支援してくれる先輩の姿にも刺激を受けました。3年次に参加した夏期カナダ英語研修は、人生のターニングポイントといっても過言ではありません。英語が得意なわけではなかったのですが、大学の手厚いサポートがチャレンジを後押ししてくれました。ホームステイ先のホストファミリーが本当に温かく迎えてくれ、現地の暮らしに溶け込む体験をし、韓国やウクライナなど多国籍の友達を通じて異文化を知ったことで価値観が大きく変わりました。

コロナ禍で進学し、活動制限がある日々の中で「成長したい」ともがいた4年間。「何事もやってみなければ分からない」という経験則を得られたのも、自分のペースでやりたいことを見つけられる大学だったからだと思います。

※SLDP…淑徳リーダーシップ・デビューメント・プログラム



PROFILE

2024年4月株式会社 テレビ信州入社

【座右の銘】「心踊る方へ」(岐路に立ったとき、選択の指針にしています)

【趣味・特技】ファッション(…ですが、お金がかかるのが悩みの種)

【今関心があること】長野県のおいしい定食屋探し
(長野県出身だからこそ誰よりも魅力を発見したい!)

【淑徳大学の思い出】一人暮らしをしていたみずほ台は住みやすい街で、思い出が詰まっています。今でも東京に行くとき足を伸ばして訪れます。



「ゆうがたGet! every.」のセットで事前の準備。
暮らしに身近な情報を届けます。

学生時代の学び、体験、出会いのすべてが今の私の基盤です。都内や埼玉県内のレジャー施設、ホテル、遠方の観光地などあちこちに出かけ、現場の課題やサービスに触れて学んだホスピタリティは、円滑なコミュニケーションに欠かせません。また、教職員の方との距離が近く、よく進路の相談に乗ってもらいました。私に合った企業の紹介や、本番ながらの面接の練習など、キャリア教育・支援センターの方のサポートがなければ、就職活動を乗り切れなかったと思います。好きなことを追求する大切さを教えてくださった千葉葉先生、黒羽先生など先生方には、今も近況を報告しています。先日は新田恵利先生が番組の特集に生出演。大学でつながるご縁を感じました。学生、卒業生、教職員と立場が異なっても関係が続くのは、利他共生の精神が

大学での学びや出会いが
人生の糧に

経験を積み重ね、
地元長野に貢献したい

現在、月曜日から金曜日の「ゆうがたGet! every.」というニュース番組のキャス

根底に流れる淑徳大学だからこそではないでしょうか。



ホストファミリーと一緒にカヌー。
カナダの大自然を体感しました。

社会に出て実感するのは、世の中のことをいかに知らないかということ。アナウンス技術も基礎から積み上げていく必要がありますし、まだまだと感じることだらけです。それでも、街で出会った方に「見たよ」と言っていただけだと、言葉や情報を届けるこの仕事のやりがいを感じます。私の出身地である長野県のことを多くの人に知ってもらい、「長野に寺澤あり」と地元にも少しでも貢献できるように頑張っていきたいです。

ターを務めています。ニュース原稿を読むだけでなく、朝から取材に出て原稿を書き、字幕テロップを作成した後にメイクをして夕方に出演、と目まぐるしい1日ですが、挑戦がいのある仕事です。サッカー中継のピッチリポート、事件や事故の現場からのリポート、全国放送の番組出演などにも幅広く取り組んでいます。



卒業式。本当に充実した4年間でした!

淑徳大学フェア2025 in 宇都宮

地域とともに歩む淑徳大学の魅力を発信

— 第9回「淑徳大学フェア2025 in 宇都宮」開催 —



挨拶する山口学長



講演する高井徹氏

2025年7月26日(土)、栃木県宇都宮市「ライトキューブ宇都宮」にて、第9回「淑徳大学フェア2025」を開催し、多くの方にご来場いただきました。淑徳大学では、2001年より3年に1度、大学・同窓会・協賛会・後援会の共催により、地域社会との交流を目的としたフェアを開催してきました。2025年は、同窓会栃木県支部の協力のもと、宇都宮の地で開催しました。

本フェアは、一般市民、在学生とその保証人、卒業生、受験生、高校進路指導担当者など、幅広い層を対象に、淑徳大学の教育理念や取り組みを紹介する貴重な機会となっております。

全体会 13:00~14:45

第Ⅰ部

- 学長挨拶
- 大学紹介
- 講演会

「ライトラインのある風景」

講師:高井 徹 氏(宇都宮ライトレール株式会社 前代表取締役社長)

- ミニ対談:高井 徹 氏 × 鈴木 敏彦 副学長

フェア冒頭に山口光治学長より、「淑徳大学は今年で創立60周年を迎え、次の70周年に向けて、『キャンパス・学部・学科の充実』、『福祉の淑徳ブランドの強化』、『情報を活用した教育の強化・充実』について検討を進めること、そして教育・研究・地域連携を通じて、淑徳大学が皆様の期待に応え、社会に貢献できる存在であり続けるよう努めて参ります」と挨拶がなされました。

講演会「ライトラインのある風景」では、講師に高井徹氏(宇都宮ライトレール株式会社前代表取締役社長)をお迎えし、鈴木敏彦副学長と対談が行われ、高井氏からは「ひとつの鉄道が地域を豊かにしたことやライトラインが市民の方の生活の一部になるまで」、鈴木副学長からは「鉄道も大学も同じく人を生かす存在である」というお話がなされました。



分科会

15:00
～
16:00

- 分科会①…保証人懇談会
- 分科会②…進学相談会

本学教職員による、在学生向け保証人懇談会、受験生や保護者向けの進学相談会では、個別に相談できるブースが設けられ、淑徳大学の学びやキャンパスライフについて直接質問できる貴重な機会となりました。



保証人懇談会の様子



進学相談会の様子

◆宇都宮ブルックス選手トークショー



宇都宮ブルックス・遠藤 祐亮 選手

同日開催された「出張オープンキャンパスin宇都宮」では、宇都宮市を本拠地とするプロバスケットボールチーム「宇都宮ブルックス」の遠藤祐亮選手をゲストに呼び、トークショーが開催されました。多くの方が来場し、地域とのつながりを感じるイベントとなりました。



◆懇親会

懇親会では、地元のお酒やお料理とともに、同窓生や教職員が久しぶりの再会を楽しみました。

◆特別企画

観光バスツアー 『夏でも涼しい大谷地下神殿』

淑徳フェア翌日は、観光バスツアーが開催され、栃木県の観光名所である大谷地下神殿や名物の餃子を楽しみました。



次回開催予定

淑徳大学フェア2028

次回の淑徳大学フェアは、2028年に群馬県で開催予定です。詳細な日程や開催地は今後発表を予定していますが、これまでのフェアの成果を踏まえ、より一層充実した内容に参ります。

地域との連携をさらに深め、教育・研究・社会貢献の面で淑徳大学の魅力を発信する場として、多くの方々の参加をお待ちしております。

在学生
Student introduction
紹介

災害医療への想いが 大学の垣根を越えてつながる

大学で学ぶ専門知識と
課外活動での経験が
相乗効果を生む

病気や怪我で苦しむ人を看護師として支えたいと思うようになったきっかけは、中学生の頃に入院し、痛みや不安に寄り添ってくれた看護師さんのケアに触れたことです。困っている人や助けを求めている人に手を差し伸べることで誰かが笑顔になる、そんな仕事に魅力を感じました。

大学では、1年次から人体の構造や機能、疾病の成り立ち、免疫など専門的な分野を学び、身体の緻密さや多機能さに衝撃を受けました。身体の動きや構造にも意味があり、医療的な処置をするために欠かせない知識を深く学んでいます。早期から実習の機会も多く、仕組みを理解しながら知識を吸収し、実践する日々です。

このような充実した学びの環境を土台に、さらに自分のコミュニティを広げるために、1年次の秋頃から、医療人同士の関わりを持てる学外活動を探し始めました。最初は看護学生の団体を探していたのですが、たまたま日本災害医学会学生部会 関東支部、通称「関東DMAS」の存在を知り、救急や災害

ウィズ・ユー

日本災害医学会学生部会
関東支部(関東DMAS)代表

秋葉 洸貴さん

看護栄養学部 看護学科 3年※
※学年は取材時のものです。

大学での勉学や実習に加え、日本災害医学会学生部会 関東支部(関東DMAS)に所属し、勉強会、被災地域でのボランティア活動、他団体との連携・交流など幅広く活動。現在、200人を超える団体の代表を務める。



の現場で働きたいと思っていた自分にぴった
りだと感じ、入会しました。

災害現場で活動する 医療従事者から学びを得る

関東DMASの主な活動は、月1回開
催される災害医療に関する勉強会です。
学生が講師を務める他、実際の災害現場
に従事する医師、看護師の方に講義を
行っていたりすることも。そんなゲストス
ピーカーたちのお話の中で特に印象に
残っているのは、災害医療派遣チーム
(DMAT)として活躍する方による「災
害支援者のメンタルヘルス」です。

その方は、2005年に発生したJR
福知山線脱線事故の現場で活動されてい
て、当時の様子や報道のあり方、被災者
だけでなく支援者のメンタルの保ち方な
ど、さまざまな視点で話をしてください



ました。実際に現場を体験している方か
ら、患者さんとの関わり方や災害医療を
取り巻く複雑な問題などを聞けるのは、
貴重な機会だと思います。

2025年に入ってから、ドクターヘ
リを所有する千葉県内の病院の先生か
ら、航空医療や空港災害について学んだ
り、災害時を想定したヘリや救急車での搬
送方法や順序をグループで考えたりする
勉強会も実施。大学の講義で災害に関す
る内容を学ぶ際に理解を深める助けにも
なっています。大学の学び+αの知識が得
られる活動です。



メンバーの個性を大切に 代表として組織をまとめる

現在、関東DMASの代表として活動
に従事しています。代表になった当初は、
さまざまな大学の学生スタッフ2000人
以上とどのように関わればよいか、苦労



しました。また、ご協力いただく先生方や
所属スタッフなどから寄せられる膨大な
情報をさばききれず、運営に支障が出そ
うになると、正直、大変さを感じます。

しかし、他大学の学生との関わり合い
の中で、常に新たな考えや知見に触れ、
以前よりも広い視野でものを捉えら
れるようになりました。メンバーが作成す
る勉強会のレジュメもクオリティが高く、
毎月の勉強会で刺激を受けています。ま
た、大学での学びの内容や実習に関する
情報交換をすることも。組織を大きくす
るために、討論を重ねながら、これまで
ない方法で新規の会員募集を行ったとこ
ろ、非医療系でありつつ災害医療に興
味を持つ大学生も含め入会者を大幅に増
やすことができた、自信につながりました。

私が救急や災害医療に携わる看護師
をめざしているのは、現場の最前線で多
くのことを学びたいから。将来は、被災地
で積極的に活動することが目標です。い
ずれは災害派遣医療チーム(DMAT)に所
属し、困っている被災者に寄り添いなが
らケアを提供できる看護師になりたいです。
また、いつかは淑徳大学の教員として、
災害医療や看護に関する研究と教育に携
わりたいと考えています。



学祖・長谷川良信先生の足跡

—写真から広がる長谷川良信先生の世界—



写真について

長谷川良信先生がブラジルに建立した日伯寺の仮堂前で1954年（昭和29年）12月頃に撮影されました。日伯は日本とブラジル（伯国と略記）の意味です。

3 日伯寺の移転

良信先生は日伯寺移転にあたり、自ら陣頭指揮を取りましたが、建設工事は思うように進まず、ブラジルに到着の半年後、やっと移転先での日伯寺が機能するようになりました。11月16日には、寺内に「日伯寺学園」を付設して事業を開始します。12月21日、寺堂の上棟式と仏像開眼式を挙行了しました。翌年9月、学園は「社会福祉法人 こどものその」の前身にあたる知的障害児の治療教育部を始動します。



（左）建築中の日伯寺正式本堂・日伯寺学園
（右）現南米浄土宗別院日伯寺（提供：大乘淑徳学園本部）

1 ブラジル渡航

長谷川良信先生は、60歳を過ぎてから、ブラジルに3回にわたり渡航しています。当時の渡航は船旅でもあり、また同じ60歳といっても現在とは年齢の感覚が違いますので、負担が大きかったといえます。良信先生の渡伯1回目は、63歳の1954年2月26日、アメリカ経由のブラジル入りでした。その折に計画した日伯寺は、同年11月、ブラジル政府から正式に「南米仏教浄土宗 別院日伯寺」として認可され、サンパウロに仮堂が設置されます。

2 2回目の渡航

1955年3月、良信先生はブラジルから帰国します。そして2回目は1957年4月15日、佐々木陽明（第2代浄土宗南米開教総監、日伯寺住職）・長男の良昭（大乘淑徳学園前理事長）等と神戸港を出航しました。現地での活動を引き継いでいく次世代を伴って渡伯したのです。到着後、良信先生は日伯寺を現在のラッパ区ピケリーに移転することを決めました。

4 開教の成功の要因

良信先生のブラジルでの開教の成功は、どのようにしてもたらされたのでしょうか。良信先生は、第1回目の渡航時、北はアマゾン川流域から、南はアルゼンチン国境近くまでブラジル全州をほぼ踏破し視察しています。国の実態把握のために約8ヶ月を費やしました。広範囲の綿密な視察により、国情や人々のニーズを探り、日伯寺の事業を計画したのです。

参考文献
長谷川匡俊
『社会派仏教者・長谷川良信の挑戦』2010年
長谷川匡俊『トゥギャザー ウイズ ヒム』2020年
長谷川良信『第二次ブラジル遊記』1987年
淑徳大学アーカイブズ（千葉キャンパス1号館3F）▶
（作成 淑徳大学アーカイブズ）



日野副学長

消費者支援功労者表彰されました

2025年5月29日(木)、総理大臣官邸にて、日野副学長が令和7年度消費者支援功労者として表彰されました。消費者支援功労者表彰とは、消費者利益の擁護及び増進を図るため、消費者支援活動に顕著な功績のあった個人又は団体・グループを表彰する制度です。

日野副学長は、消費者法や消費者政策等の研究実績や行政機関と学生との連携で、地域コミュニティを通じた消費者教育を実践し、また、卒業生が地域の消費者行政に従事するなど、担い手の育成にも貢献した事などが認められ、表彰されました。式典には、石破総理大臣も列席され、祝辞を述べられました。



式典には石破総理大臣も列席されました



【日野副学長表彰コメント】

この度、消費者支援功労者として荣誉ある表彰を受け、改めて関係者の皆様に心より感謝申し上げます。この表彰は、コミュニティ政策学部の先生方、これまで熱心にゼミ活動に取り組んでくれた学生の方々はじめ、大学関係者の皆さんが温かく見守ってくださった結果に対する受賞であると思えます。今後も、微力ではありますが、安全・安心な消費生活に向けて尽力して参ります。

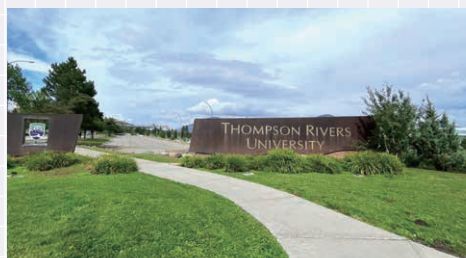
夏期短期海外研修

トンソンリバーズ英語・異文化研修 8月5日(火)～31日(日)

カナダのトンソンリバーズ大学で毎年8月に実施される「英語・異文化研修」に、2025年は本学から5名の学生が参加しました。滞在中はホームステイ、授業は、台湾、韓国、メキシコの学生達とも一緒に学び、海外の友人もできました。プログラムにはカナダの大自然を満喫するアクティビティも組み込まれ、あつという間に4週間が過ぎていきました。

初の海外渡航だった学生にとって、英語力向上はもちろん、カナダで異文化を肌で感じ多様な価値観に触れるなど学びの多い研修となりました。

学生時代に、短期間でも海外で過ごす経験は、新たな発見や自己成長があります。海外研修や留学に興味のある方は、留学支援室までお気軽にお問い合わせください。



女子ソフトボール部

第60回全日本大学女子 選手権大会出場!

2025年4月26日～5月3日にかけて行われた「関東学生女子ソフトボール春季リーグ戦」及び5月24日～26日にかけて行われた「第33回関東学生男女ソフトボール選手権大会」で優勝し、関東第1代表として「第60回全日本大学女子ソフトボール選手権大会」への出場権を獲得しました。

この成果も日頃よりご支援いただいている皆様、そして毎日私たちと向き合い全力でサポートしてくださった監督やコーチのおかげで掴むことができました。

これからは全国の舞台での戦いになります。必ず勝ち上がり日本一という目標を達成し、皆でその景色を見たいです。最高の結果で恩返しできるよう練習に励みますので、今後とも淑徳大学ソフトボール部をよろしくお願い致します。



ソフトボール部 主将 鳥谷 選手

千葉キャンパス

皆さんは「心のサポーター」をご存知ですか？

「心のサポーター」とは、メンタルヘルスや精神疾患への正しい知識と理解を持ち、身近な人に対して、傾聴を中心とした支援を行うサポーターです。特別な資格は不要で、誰でもサポーターになることができます。厚生労働省では、2033年度までに全国で100万人の「心のサポーター」養成を目指しています。

2025年7月8日に千葉キャンパスで、千葉市主催「第1回心のサポーター養成研修」が開催され、社会福祉学科から約50名の「心のサポーター」が誕生しました。研修では、こころの不調に気づくためのポイントや声のかけ方について、講義だけでなく「聴く」ワークやアクションプランの作成にも取り組みました。

参加した学生からは「親しい人にはつつい気が抜けてしまうため、これからは聴き方のコツを心がけた関わりをしたい」との感想がありました。研修を通して、実際に行動することの大切さを身をもって感じたようです。



「聴き方のコツ」を使ったワーク



ここサボ研修(講義)の様子

淑徳大学と千葉ホークスの包括連携協定について

淑徳大学と千葉ホークスは、2025年6月19日に包括連携協定を締結しました。パラスポーツを通じた教育連携や地域貢献、人材育成を目的に、両者の資源を活かした活動を展開していきます。今後、学生や教職員への教育機会の提供、施設利用、地域との連携など、多方面での協力が期待されます。

詳しくは淑徳大学
公式ホームページを
ご覧ください



白旗七夕まつり開催～願いを込めて、星に祈ろう～

2025年7月5日(土)、「白旗七夕まつり」が白旗公園にて開催されました。淑徳大学と白旗町内会の共催となるこのイベントは、今年も幅広い世代の来場者で賑わいました。

本学からは、「共生(ともいき)スタッフ」による子ども縁日の運営、「学生消防団」による水消火器体験、「徳能雑技団」によるバルーンアート、「国際交流(留学生)」による異文化交流ブースの運営など、学生たちが主体的に参加しました。パフォーマンスステージでは、吹奏楽部による演奏、ジャグリング、キャラクター「しゅくとくま」との撮影会も行われ、会場を盛り上げました。

これまで白旗七夕まつりに関わってこられた多くの方々の思いを受け継ぎながら、地域の皆様と共に、伝統を守りつつ新しい文化を創造する心温まる一日となりました。

2026年も、7月第1週の土曜日に開催される予定です。今後も、地域と大学の連携による交流の深化が期待されます。



賑わう、第23回白旗七夕まつり

千葉第二キャンパス

看護学科「卒業生の集い」を行いました

7月5日(土)に、毎年恒例の「看護学科 卒業生の集い」を実施しました！
2025年3月に卒業し、看護師や保健師として活躍している30名が学び舎に戻ってきました！千葉第二キャンパスのラーニングコモズにて、日野副学長や同窓会代表幹事の長澤様からご挨拶をいただいた後、食堂「リラカフェ」にてオリジナルスイーツなどを楽しみながら、学友たちと看護職1年目の大変さや悩み、業務内容などについて語り合い、互いの近況を報告し合いました。

参加者からは、「久しぶりに友人や先生方と会えて元気をもらいました。明日からまた頑張れそうです」などの意見が寄せられました。仕事で疲れたら、いつでもキャンパスの先生方や職員の皆さんに会いに来てくださいね。卒業生の皆さんの今後の活躍を応援しています！



リラカフェに移動して軽食を楽しみながら近況報告。
新人看護職ならではの大変さ、悩み、そしてやりがい。様々なことを共有しました

ラーニングコモズで集合写真。
久々の再会に皆さんいい笑顔です！

給食経営管理論実習の紹介～100食の大量調理

栄養学科3年生の前学期科目として、給食経営管理論実習が行われています。「給食」と聞くと小・中学校の給食の時間を思い出される方が多いと思いますが、レストラン・宿泊施設などの営業給食や、学校給食・工場や社員食堂の事業所給食・病院・保育所・高齢者施設での給食を集団給食と呼び、給食に関わる仕事は多岐にわたります。実習では100食という大量調理を行い、その量の多さだけではなく、食材の廃棄部の量や乾物の戻し率などを考えての食材発注・納品、提供時間に間に合うように作業を行うためのスケジュール管理、そして徹底した衛生管理が求められます。授業で学んだことを実践で生かし、計画通りの献立が完成した時の学生の達成感と笑顔は実習ならではのものです。3年生後学期の学外臨地実習に向けて、さらなる飛躍を遂げてもらいたいですね。



班のメンバーと協力して野菜のカットを行っている様子です



完成した献立。
見た目にも明るく今にも食べたくりますね！

東京キャンパス

東京キャンパスに新たな学びの場が誕生！

東京キャンパスでは、学生の皆さんの学修環境をさらに充実させるため、4号館2階と6号館2階に自習スペースを増設しました。

この取り組みは、学生一人ひとりが快適に学びに取り組める環境を提供し、学びの質を向上させることを目的としており、さまざまなニーズに応える工夫が施されています。半個室タイプの席は、周囲の視線や音を気にせず、自分のペースで集中して学修に取り組むことができる設計となっています。一方で、オープン席やモニター席も用意されており、個人での学修だけでなく、グループでのディスカッションや共同作業にも対応可能な柔軟な空間が整っています。

また、これらのスペースは単なる学修の場にとどまらず、リフレッシュしたり、気分転換を図ったりするための休憩スペースとしても利用できるよう工夫されています。これにより、学びと休息のバランスを取りながら、より効率的に学修を進めることができます。

東京キャンパスでは、学生が自由に使える多様なスペースを提供することで、学びの幅を広げ、より充実したキャンパスライフを実現することを目指しています。ぜひ、東京キャンパスにお越しの際には、この新しい自習スペースを実際に活用してみてください。学生の皆さんの学びがさらに深まり、充実したものとなることを願っています。

4号館2階 半個室ブース&モニター席



6号館2階 半個室ブース&オープン席



埼玉キャンパス

埼玉県教育委員会からの説明会等がオープンキャンパスで行われました 〈教育学部〉

2025年4月27日(日)、教育学部のオープンキャンパスでは、淑徳大学と埼玉県教育委員会との連携協力協定に基づき、県の教職員採用課から高校生に向けた説明会と個別相談会が、行われました。

午前中の説明会で、学校の先生の仕事、教員の職場環境、また、教育職員免許状の取得方法、大学の選び方、教員採用選考試験など、多岐にわたる説明がありました。

特に職場環境については、現場の先生に元気で明るく子供たちの前に立ってほしいために、働き方改革を推進していること、その中で、教員業務支援員を配置して教員でなくてもできる仕事については支援員に依頼する制度を取り入れていることなどの説明がありました。

午後には、高校生を対象とした個別相談会が行われました。

高校生にとっても、またスタッフとして参加した教育学部の学生にとっても、オープンキャンパスがますます有意義な場となりました。



説明会の会場の様子

地域理解実習(富士見市について) 〈地域創生学部〉

地域理解実習は、1年生が笠間市、三芳町、八潮市、富士見市の4つのコースに分かれ、フィールドワークを実践する授業です。富士見市コースでは、富士見市の文化であり地場産業でもあるホウキモロコシの栽培と収穫、座敷ぼうき作りを通じて、地域の文化と産業との関わりについて理解を深めました。

かつて、富士見市周辺は座敷ぼうきの原料となるホウキモロコシの一大産地でした。また、この原料を利用した座敷ぼうきの一大産地でもありました。今では、産地としての姿は様変わりしましたが、座敷ぼうきが富士見市の文化であり地場産業であることに変わりはありません。

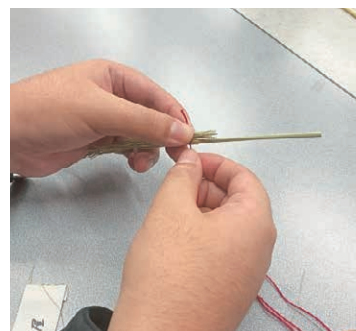
この実習では、富士見市ほうき作り伝承会の方から、富士見市においてホウキモロコシや座敷ぼうきの生産が始まった歴史的経緯、ホウキモロコシの栽培や収穫の方法、座敷ぼうき作りのお話をいただき、一連の過程を体験しました。座敷ぼうきの歴史や生産について見聞きし体験することで、学生が地域の文化や産業の伝承を考えることができました。



ホウキモロコシ種まき



ホウキモロコシ収穫



ホウキづくり



学園祭

一部オンラインでも開催します。詳細は特設サイトをご確認ください。



10/25(土)・10/26(日)

学園祭
TOP



学園祭
オンライン
TOP



千葉キャンパス

龍澤祭

特設サイトはこちら

<https://www.shukutokufes.com/chiba/>



埼玉キャンパス

淑徳祭

特設サイトはこちら

<https://www.shukutokufes.com/saitama/>



ホームカミングデー

千葉キャンパス

千葉第二キャンパス 10/25(土)

東京キャンパス

埼玉キャンパス 10/26(日)

詳細は大学ホームページを
ご確認ください



<https://www.shukutoku.ac.jp/alumni/>

千葉第二キャンパス

翔蓮祭

特設サイトはこちら

<https://www.shukutokufes.com/chiba2/>



東京キャンパス

淑徳祭

特設サイトはこちら

<https://www.shukutokufes.com/tokyo/>



淑徳大学60周年記念式典 会場●淑徳大学千葉キャンパス

2026年 10/4(日)

詳細は大学ホームページをご確認ください

<https://www.shukutoku.ac.jp/university/60th/>



共に歩む これまでも これからも

千葉キャンパス

総合福祉学部
コミュニティ政策学部
大学院 総合福祉研究科
〒260-8701
千葉県千葉市中央区
大蔵寺町200
Tel 043-265-7331

千葉第二キャンパス

看護栄養学部
大学院 看護学研究科
〒260-8703
千葉県千葉市中央区
仁戸名町673
Tel 043-305-1881

埼玉キャンパス

教育学部
地域創生学部
〒354-8510
埼玉県入間郡
三芳町藤久保1150-1
Tel 049-274-1511

東京キャンパス

経営学部
人文学部
留学生別科
〒174-8631
東京都板橋区
前野町6-36-4
Tel 03-3966-7631

発行日 | 2025年10月1日

編集 | 淑徳大学
大学広報誌
編集委員会

発行 | 淑徳大学
大学事務局

大学広報誌「Together」読者アンケートのお願い

大学広報誌「Together」は4月と10月の年2回発行しています。保護者や卒業生の皆様に向けて、「淑徳大学の今」をお届けします。皆様の貴重なご意見、ご感想をお聞かせいただきたく、右記より読者アンケートへのご協力をお願い致します。

<https://forms.gle/CB9Ujqz25gqfrBHMA>



公式HP



公式Instagram



公式YouTube



公式X



アドミッションセンター
公式X



公式Facebook



淑徳大学
共に歩む これまでも これからも

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

淑徳大学は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

淑徳大学は持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向け、積極的に取り組んでいます。

その一環として、この印刷物はFSC®森林認証紙と、地産地消・輸送マイレージに配慮したライズインキを使用しており、環境に配慮した印刷物として発刊しています。